

(別紙)

各委員の意見等

NO	協議会 役 職	現 職	氏 名	報告事項1 病床機能報告について	報告事項2 疾病・事業ごとの医療連携 体制を構築する病院の表	協議事項1 第7次山形県保健医療計画【最上地域編】		協議事項2 公立・公的医療機関等の具体鉄器対応方針の再検証等	
				意見	意見	承認の 可否	意見	合意の 可否	意見
1	会長	新庄市最上郡医師会会長(三條医院)	三條 典男	了承	了承	可		可	地域の病床は、災害時・感染症時のバッファーとして機能する可能性がある。
2	副会長	新庄市最上郡医師会副会長(土田医院)	土田 秀也	了承	了承	可	なし	可	なし
3	委員	新庄地区歯科医師会会長(伊藤歯科医院)	伊藤 直樹	特になし	特になし	可		可	
4	委員	新庄最上薬剤師会会長(旬メディカ ほし薬局)	星 利佳			可		可	
5	委員	公益社団法人山形県看護協会最北支部 支部長 (県立新庄病院)	大類由利子			可	在宅においても安全が保たれ、安心して療養生活が送れるような在宅での医療整備も考えていく必要があるのではないだろうか。	可	地域にはなくてはならない病院だと思います。地域の住民のためにがんばっていただきたい。
6	委員	山形県立新庄病院院長	八戸 茂美	特になし ※4頁の病床機能報告における2025年の病床数について、現病院の病床数となっているので、次回の報告の際、新病院ペースで報告します。	特になし	可	【修正意見】 ①「1医療提供体制」の「(5)救急医療」(P29) 一番上の項目を「→引き続き、病院事業局において、地域救命救急センターの運営体制について検討」に修正 ②「地域の特徴的な疾病対策等」の「(6)その他(発達障がい児の早期発見、早期療育)」(P35) 一番上の項目を「→引き続き、病院事業局において、こども医療療育センターとの連携について検討」に修正	可	特になし
7	委員	町立最上病院院長	佐藤 俊浩			可		可	
8	委員	町立真室川病院院長	室岡久爾夫			可		可	【修正】修正前に発出された項目について修正 (P53) 6行目の「多くは～」の箇所について「多くは検査等の結果、帰宅しても問題ないとされたものと考えています。そうした軽度の患者については、当院で受け入れを進めてまいります。」に修正
9	委員	医療法人徳洲会 新庄徳洲会病院院長	笹壁 弘嗣			可		可	
10	委員	医療法人社団清明会 新庄明和病院院長	池谷 龍一	特にありません	特にありません	可	特にありません	可	精神疾患に関しては、可能な限り連携、対応していきます。
11	委員	町立金山診療所所長	石川 成範	町立金山診療所は、2021年4月から無床化の予定です。	特にありません	可	特にありません	可	特にありません
12	委員	大蔵村診療所所長	荒川 光昭	特にありません	特にありません	可	特にありません	可	特にありません
13	委員	戸沢村中央診療所所長	渡邊 孝弘			可		可	
14	委員	山形県老人福祉施設協議会副会長 (介護老人福祉施設えんじゅ荘荘長)	坂上 洋	最上地区の慢性期病床の割合が4地区の中で一番比率が少ない構想のようですが、高齢化が一番高くなると思われる地域なのでもう少し多くてもよいのかと思います。	特にありません	可	特にありません	可	特にありません
15	委員	新庄市社会福祉協議会 新庄市地域包括支援センター所長	坂本 寛	意見等はございません。	意見等はございません。	可	医療・介護従事者ハンドブックは、とても良い取り組みだと感じました。是非、よろしく願っています。	可	意見等はございません。
16	委員	金山町連合婦人会会長	星川 恵子			可		可	
17	委員	医師(有識者) (きねぶち医院)	杵淵 篤	特になし	特になし	可	特になし	可	特になし
18	委員	新庄市長	山尾 順紀			可		可	
19	委員	最上地方町村会長(戸沢村長)	渡部 秀勝	無	無	可	無	可	無
20	委員	最上広域市町村圏事務組合消防長	高橋 亮一	特にございません	特にございません	可	特にございません	可	特にございません
21	委員	山形県介護支援専門員協会最上地区支部長	高橋 英一	特になし	特になし	可		可	
22	委員	公益社団法人山形県栄養士会新庄地域事業部理事	伊藤千恵美			可		可	
23	委員	公益社団法人山形県看護協会 訪問看護ステーション新庄 所長	柿崎由美子	特にありません	特にありません	可	看護師等生涯サポートプログラム「最上プラス」は、とても良い計画だと思います。ぜひ良い結果が出るよう、協力できる部分はさせていただきますと思います。	可	真室川町民にとっては、なくてはならない医療機関であることを非常に実感しています。住民が安心して生活できる医療体制が地域にあるということは、とても重要です。真室川病院の医師や看護師との連携もスムーズに図れ、お互いの見える関係が築けるようになってきました。訪問看護の利用者も増えてきている状況です。今後も、この連携スタイルを維持しながら、地域住民が安心して生活できる支援を行ってきたいと考えています。
24	委員	最上地区広域連合事務局長	八畝 弘一	特にありません	特にありません	可	特にありません	可	特にありません
25	委員	最上保健所所長	藤井 俊司			可		可	